



かがやく浜の子

令和3年度 12月号

令和3年度重点目標「気づき 考え 自分から行動する子 → かがやきいっぱい」

大切なことって目には見えない

「心で見なければ、よく見えないってこと。大切なことって目には見えない。」

これは、『星の王子さま（作；サン＝テグジュペリ）』の中の有名な一節で、主人公の王子がキツネから言われた言葉です。キツネは「君が薔薇のために使った時間が、君の薔薇をあんなにも大切に作るんだ」と続けます。『星の王子さま』の本を初めて手にしたのは、教員になったばかりの時でした。その時は、語り口が単調に思えて、特に心を動かされるものはありませんでした。しかし、「世界的に読み継がれている名著であるからには」と、思い立った時に何回も読み返してきました。すると、読むたびに新しい発見がありました。その中でも、特に心に強く残っているのは、前述のキツネの言葉です。

この言葉は、『賢者のおくりもの（作；オー・ヘンリー）』にも通じるものがあるように思います。（このお話は、昨年度の2学期終業式で、子供たちに読み聞かせをしました）

『賢者のおくりもの』あらすじ

ある町にジム（夫）とデラ（妻）という若い夫婦がいました。明日はクリスマス。生活は貧しく、いくら切り詰めてもお互いへのプレゼントを買うお金はありません。そんな二人にも宝物がありました。ジムの宝物は祖父から父へと代々伝わる金時計、デラの宝物はその美しい髪の毛でした。

クリスマスの前日、デラは夫にプレゼントを買うだけのお金がないため、自慢の美しい髪を切り売ってしまいます。そのお金でジムにぴったりのプレゼント「金時計につける鎖」を買います。

ジムは家に帰ると、短い髪のデラの姿を見て複雑な表情をします。ジムがデラに用意したプレゼントは、デラがあこがれていた美しい「くし」だったからです。その「くし」を使う美しい髪はもうないのです。それでもデラは喜び、ジムに「金時計につける鎖」を渡します。ところが、ジムも、デラに「くし」をプレゼントするために、自慢の金時計を売ってしまっていたのでした。

物語の終わりに、ジムは笑って言います。「デラ、僕たちのプレゼントはしばらくしまっておこう。今の僕たちには立派すぎるからね。さあ、夕食にしよう。お鍋に火をかけておくれ！」

「くし」も「金時計につける鎖」も、今は使えないものです。しかし、二人はお互いの「思いやり」を受け取りました。大切なことは目の前にある物ではなく、お互いのことを思いやる気持ちや、相手のために使った時間であり、目ではなく心で見ないと見えません。今年の夏、オリンピックでの日本人選手の姿に心動かされるのも、私たちがそこに至るまでの努力を、心で想像して見るからではないでしょうか。

12月4日の浜の子発表会では、子どもたちが、地域活性化レー、ハーバリウム・キャンドル、ピタゴラスイッチ、アクアリウム、グランピング、未来の御前崎市、PR動画、人形劇、おもちゃランド、秋のみランド、なかよしアート作品など、今までの学習の成果を表しました。そうした素晴らしい目に見える成果と共に、「協力して仕上げよう」「もっと工夫しよう」などのこれまでの努力や、「わかりやすく話そう」「来ていただく方に喜んでもらおう」などの当日の思いも、子供たちの姿から心で見ることができました。



※

昨年に続いてのコロナ禍で、様々な変更や縮小を余儀なくされた今年の教育活動でしたが、保護者・地域の皆さんの御理解と御協力で、新しい年を迎えることができます。ありがとうございました。御家族そろって、穏やかなよいお年をお迎えください。（文責 校長）